

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 61178912

PUBLICATION DATE : 11-08-86

APPLICATION DATE : 02-02-85

APPLICATION NUMBER : 60018825

APPLICANT : NEW JAPAN CHEM CO LTD;

INVENTOR : KANBARA YOSHIKUNI;

INT.CL. : A61K 7/075

TITLE : LIQUID SHAMPOO COMPOSITION

ABSTRACT : PURPOSE: The titled composition having improved liquid properties without losing merits of long-chain alcohol, containing a sulfate of a specific long-chain alcohol, an adduct of the alcohol with an alkylene oxide and/or its sulfate.

CONSTITUTION: The titled composition which has no unpleasant squeaking phenomena during hair washing, provides good finish with feeling of moisture, omits or simplifies rinse treatment after hair washing, and has improved liquid properties, containing one or more selected from a sulfate of mainly 16-20C saturated or unsaturated alcohol, an adduct of the alcohol with an alkylene oxide, and its sulfate. The blend is used with a short-chained alcohol sulfate, etc., and can raise synergistically solubility without losing merits of both the components, and in that case, the blending ratio of the long-chain alcohol derivative is $\geq 10\text{wt}\%$, preferably $\geq 20\text{wt}\%$ base on the total active component.

COPYRIGHT: (C)1986,JPO&Japio

BEST AVAILABLE COPY

⑬ 日本国特許庁(JP)

⑭ 特許出願公開

⑯ 公開特許公報(A) 昭61-178912

⑰ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑱ 公開 昭和61年(1986)8月11日

A 61 K 7/075

7417-4C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑲ 発明の名称 液体シャンプー組成物

⑳ 特 願 昭60-18825

㉑ 出 願 昭60(1965)2月2日

㉒ 発 明 者	村 井	孝 一	京都市伏見区葎島矢倉町13番地	新日本理化学株式会社内
㉓ 発 明 者	横 田	孝 男	京都市伏見区葎島矢倉町13番地	新日本理化学株式会社内
㉔ 発 明 者	神 原	吉 国	京都市伏見区葎島矢倉町13番地	新日本理化学株式会社内
㉕ 出 願 人	新日本理化学株式会社			京都市伏見区葎島矢倉町13番地

明 細 書

1. 発明の名称

液体シャンプー組成物

2. 特許請求の範囲

主として炭素数16～20を有する飽和若しくは不飽和アルコールのサルフェート、当該アルコールのアルキレンオキシド付加物若しくはその付加物のサルフェートから選ばれる1種又は2種以上を含むことを特徴とする液体シャンプー組成物。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、液体シャンプー組成物に関する。

〔従来の技術〕

現在市場で販売されているシャンプーは、ほぼ液体に限られているが、この液状は冬期から夏期に亘り広い温度範囲で均一な状態を保つ必要がある。そのためには比較的水溶性の良い中、短鎖の高級アルコール、例えばラウリルアルコールを主成分とするヤシ系アルコール又はオキシ族で代表

はアルキレンオキシド付加サルフェートを使用しているのが現状である。牛脂、豚脂あるいはバーム油を原料とするような炭素数16～20のアルコールを主成分とする長鎖アルコールは洗髪のキシミもなく洗い上がりの毛髪の間合いが良く、しなやかな髪の手触れを得る等の長所を持つが、そのサルフェートは水溶性が低く液状を保つことが出来ない。更に、アルキレンオキシドを付加しても通常の付加量では液状を保つことが出来ず、多大に付加するとシャンプーの重要な性能の1つである起泡性が低下し実用性は失われてしまう。このため、当該アルコールを使用した例は見当たらない。

〔発明が解決しようとする問題点〕

本発明者は、これら長鎖アルコールのもつ長所を失うことなく、液性に優れた液状シャンプーを得るべく鋭意検討の結果、本発明を完成するに至った。

即ち、本発明は、主として炭素数16～20を

特開昭61-178912 (2)

ート、当該アルコールのアルキレンオキシド付加物若しくはその付加物のサルフェートから選ばれた１種又は２種以上を含むことを特徴とする優れた液体シャンプー組成物を提供することを目的とする。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明で適用出来る長鎖アルコールは、主として炭素数１６～２０を有する飽和若しくは不飽和アルコールであれば足り、具体的には牛脂、豚脂、バーム油の他、ヤシ系アルコールの高沸点分、鯨物油、魚油等から得られる同様の組成のアルコールが例示される。

本発明において液性を損うことなくシャンプー組成物を得るためには、当該アルコールのヨウ素価に応じてアルキレンオキシドを０モルないし適宜なモル数付加し、次いで硫酸化する。例えば牛脂アルコールでは２モル以上望ましくは４モル以上のアルキレンオキシドを付加し硫酸化する。

本発明にいうアルキレンオキシドとは、エチレンオキシド、プロピレンオキシドが例示され、そ

れらの共付加物も適用出来る。

中、短鎖アルコールを併用する場合には、アルキレンオキシド０モル体でも良く、長鎖アルコールの付加モル数により適宜選択すれば良いが、洗髪時のキシミがなく、風合いの良い洗い上がりを得るためには、本発明に係る活性分が全活性分の１０％以上好ましくは２０％以上含有されることが望まれる。

更に中、短鎖アルコールのサルフェート又は当該アルコールのアルキレンオキシド付加物のサルフェートを混合使用することによって、相乗的に溶解性を高めることも出来る。この場合、長鎖アルコール及び中、短鎖アルコール双方の長所を失うことはない。

本発明に係る組成物においては、通常使用されるアルカノールアミドの他、液性を損わないものであれば何等制限は無く他のアニオン、ノニオン、両性界面活性剤を併用することが出来る。更に、キレート剤、殺菌剤、防腐剤、香料、粘度調整剤、色素、パール化剤、フケ止め剤等を適宜添加す

ることが出来る。

〔実施例〕

以下に実施例を示し、本発明を詳説する。

通常使用される中、短鎖のヤシアルコール系及び合成アルコール系原料を使用して得た配合組成物を標準として、本発明により得られた配合組成物について夫々物性ならびに洗髪テストを行なった。

夫々の配合物はその活性分の全量を２０％とし、アルカノールアミドを４％、他の補助成分としてはエチレンジアミンテトラ酢酸塩０．１％、防腐剤０．２％、香料０．３％を含有し、残部は水である。

液性については、－５℃の低温恒温槽中に１か月間放置した後の状態を観察し評価した。

均一安定な配合物については○印を付し、濁りを生じるか若しくは析出物を生じたものは×印で表わした。

洗髪テストは、１０人が実施例１～９の各配合

評価したものであり、１０人中６人以上の同一評価をもって結論とした。

得られた結果を表に一覧する。

〔発明の効果〕

表から明らかなように、本発明に係る配合物は洗髪時の不快なキシミ現象がなく、しっとりとした洗い上がりが見られ、洗髪後のリンス処理が省略ないしは簡略化できる。

特開昭61-178912 (3)

	標準		異 常 特 徴								
	1	2	1	2	3	4	5	6	7	8	9
牛型飽和アルコール・S・TEA					4				4		
バーム型飽和アルコールEO7・S・TEA			3				6				
ヤシ型沸点アルコールEO7・S・TEA						6					
牛型不飽和アルコールEO6・S・TEA				4			10				
牛型不飽和アルコールEO7・S・TEA						10		12		20	
オレイルアルコール・S・TEA					10				8		
牛型飽和アルコールPO2EO7・S・TEA											16
オレイルアルコールEO14											2
ヤシアルコールEO3・S・TEA	20			18	6		4	8			
オキソアルコールEO3・S・TEA		20	17			4			8		
ヤシ型飽和アルカノールアミド	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
凝 性 (-5℃, 1ヶ月)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
凝 性時のキシミ	有	有	無	無	無	無	無	無	無	無	無
凝 性時の臭い	B	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A

注) EO: エチレンオキシド、PO: プロピレンオキシド、S: サルフェート、TEA: トリエタノールアミン

手続補正書 (自発)

昭和61年4月30日

特許庁長官 宇 賀 道 郎 殿

1. 事件の表示 昭和60年 特許願 第18825号

2. 発明の名称

液体 シ ャ ン プ ー 組 成 物

3. 補正をする者

事件との関係 特 許 出 願 人

住 所 京都府京都市伏見区藁島矢倉町13番地

名 称 新日本理化学株式会社

代表者 村 井 肇 二



4. 補正命令の日付 自 発

5. 補正により増加する発明の数 な し

6. 補正の対象 明細書の「発明の詳細な説明」の第14段

7. 補正の内容

(1) 明細書第2頁第4行目の「長鎖アルコール」を「長鎖アルコールサルフェート」に訂正する。

(2) 明細書第3頁下から第5行目の「…付加し、次いで硫酸化する。」を「…付加して硫酸化し、次いで通常使われる、例えばナトリウム等のアルカリ金属、マグネシウム等のアルカリ土類金属、アンモニウム又はトリエタノールアミン等のアルカノールアミン等で中和して得ることができる。」と訂正する。

(3) 明細書第4頁第2～4行目の「中、短鎖アルコールを併用する場合には、アルキレンオキシド0モル体でも良く、長鎖アルコールの付加モル数により適宜選択すれば良いが、」を「中、短鎖アルコールサルフェートを併用する場合には、アルキレンオキシド0モル体でも良く、その配合比率は長鎖アルコールのアルキレンオキシド付加モル数により適宜選択すれば良いが、」と訂正する。

(4) 明細書第7頁に記述の並び、別紙の電線図

特開昭61-178912 (4)

別紙

表

	実 例	
	10	11
牛脂不飽和アルコール・EQ7・S・Mg	12	
ヤシアルコールEO3・S・Mg	8	10
ヤシ脂肪酸アルコールアミド	4	4
牛脂飽和アルコールPO2・EO6・S・Na		10
波 性 (-5℃、1ヶ月)	○	○
洗剤時のエシミ	黒	黒
洗剤後の場合い	A	A

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☒ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.